

『幼なじみとキス練習をしてたら本気になってどハマりしそう』ASMR 脚本

◆登場人物

・千夏（ちなつ）

・隣の家に住む主人公の幼馴染。

・いつも笑顔で明るい女の子で、友達も多い。

・主人公とは幼い頃から家族ぐるみで付き合いがあるため、よく一緒に遊んでいる。
今でも主人公の部屋に遊びに来る程で。距離感がかなり近く、無防備。

・クラスの男子からも人気はあるが、主人公との仲を見せつけられて、

全員告白する前に諦めている。

・主人公に対して恋愛感情を自覚していなかったが、キス練習を通じて自身の気持ちに自覚すること…

15		【幼なじみとキス練習をしてたら本気になってどハマリしそう】
16		
17		「ただの練習（キス→ディープキス）」
18		
19		※季節は夏の昼頃を想定しています。
20		
21		場所 … 主人公の部屋
22		
23		
24		・ 主人公の部屋に遊びに来た千夏。
25		扇風機に当たり、涼む千夏。
26		
27		SE:扇風機の音
28		
29		・ 千夏、扇風機の風に声を当てて。
30		
31	⑩中	「あ〜〜」
32		
33		・ 千夏、満足そうに。
34		
35		「はあ〜やっぱりあなたの部屋はいいわ〜。涼しくて快適〜」
36		
37		・ 涼むなら自分の家で涼めと少し冷めた様子の主人公。
38		
39		「そんな嫌そ〜な顔しないでよお」
40		
41		「手っ取り早く涼むなら、この部屋が1番なんだって」
42		
43		「それに、今日はちゃんと用事があって来たんだから」
44		
45		・ 千夏、立ち上がってあなたの側に近づく。
46		
47	⑩中→⑥近	SE:千夏が近づいてくる足音
48		
49		・ 間
50		
51	⑥近	「えっとね、質問っていうか？ 相談っていうか？ お願い的な？
52		そんな感じ！」
53		
54		・ 千夏、軽い調子で。
55		
56		「ちょっとキスの練習手伝ってくれない？」

・主人公、千夏の間に驚き。
・間

・千夏、その様子がおかしくて笑う。

⑧ 近

「あっはは！ 何照れてんのよう！ この恥ずかしがり屋さんめ」

「いやね、最近友達がさ、彼氏とキスしたとかの話ですごい盛り上がってるんだけどね。あたしってそういう経験ないから話についていけなくて困ってるの」

⑦ 近

「そんなわけだからさ！ 可愛い幼なじみを助けると思って協力してよ！」

・主人公、本当にキスの相手が自分でいいのか的な確認。
・間

⑥ 近

「そ、それは……あれよ。あなたじゃないと……
じゃなくて、あなた意外に頼める人いないから」

「それで、やってくれないの？」

・主人公、千夏の練習に付き合おうと回答。
・間

「さっすが！ あなたならそう答えてくれるって信じてた！」

「それじゃあ。早速やってみよう！」

・千夏、キスをするために主人公と顔の位置を合わせようとする。

「位置は……ここらへんかなあ？」

「あ、もうちょっと屈んでくれると嬉しいかも？」

「オッケー。それじゃあ……い、いくよ」

⑥ 接

・主人公、キスを目前に顔を背ける。

⑧ 接

「あ、ちょっとなんで顔背けようとするの？
て、照れることないでしょ。ちゃんとこっち見て！」

⑥ 接

「そう……そのまま……」

動かないですよ？ よし！ それじゃあ、今度こそ…すう」

・主人公にキスをする千夏。

「ふう…ん、ちゅっ…！」

・間

「……んっ……ああ……」

「あっ…えっと…なるほどなるほど、こ、こんな感じなのね？
結構ドキドキするって聞いたんだけど」

「うん。もう1回、試させてね？」

・主人公に長めにキスをする千夏。

「ちゅっ…ちゅっ…ちゅっ…んっ、ちゅっ、ちゅう…ちゅっ、ん、ふっ、ちゅっ…ちゅうっ、
ちゅっ、ふうっ」

「んんっ……なんとなくわかってきたかも。

たくさんすると、ドキドキ感が増す気がする！」

「……ねえ、今度はあなたから、してくれない？」

「こういうのは彼氏からってのもよく聞くし…。
ね！ お願い！」

・千夏、あなたの顔の前に顔を突き出し

・間

「この位置ならやりやすいでしょー あなたのタイミングで、ね？」

・あなたから長めにキス

「んっ…！ ちゅっ、んっ…ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ…！

んんっ、ちゅっ…ちゅうっ、ちゅる…ん、ちゅっ…

んふ、ちゅっ…ちゅ…ちゅうっ…ちゅうっ…ちゅうっ…つぷあっ！」

・千夏、あなたのキスがうまくて驚き。

「ん…んんっ、はふうっ……あはは…

⑥接

⑥近

⑥近

⑥接

⑤近

141 今のキスは…ドキドキしたかも」

142
143 「それに、自分でするよりも、良かったかも…
144 ねえ…もう1回、もう1回キスして？」

145
146 ⑥近 「んっ、んんっ…ちゅっ、ちゅっ、ちゅうっ！ ちゅううっ！
147 んんっ、ふう…んっ、ちゅうっ…ふあ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ！
148 んちゅっ、ちゅうっ、ちゅっ…ちゅっ！ あっ」

149
150 ・千夏、キスをやめようとする主人公に対して

151
152 「待って…まだ、終わらないで…もうちよつと、もうちよつとだけ…」

153
154 「んっ…はむ、ちゅ…んんっ…ちゅっ、んっ、んふっ…ちゅっ…ちゅっはふっ、ん…
155 んふっ、ちゅ…ちゅる…ちゅ、ちゅ、ちゅうう…っ…ぷはあっ！」

156
157 ⑥近 「はあ…はあ…んっ、ふ…はああ…、ふう…」

158
159 ・千夏、いつの間にかキスのハマっており、動揺。
160 それを隠そうとする。

161
162 ⑥中 「あっははは…なるほどね…これがキス、キスカ…
163 な、慣れたせいか、なんとなく良さってのがわかったかも」

164
165 「付き合ってくれてありがとね！ とうか、あなた、耳まで真っ赤じゃん！
166 あっはは！ そんなに気持ち良かったの？ おかしい！」

167
168 ・主人公、それは千夏もだと指摘。
169 ・間

170
171 ⑥近 「え？ あたしも…？ うそっ！ べ、別にそんなことはないと思うけどな？」

172
173 ・主人公、言い訳する千夏にキス

174
175 ⑥接 「んんっ！」

176
177 「んっ…！ ふっ、んんっ！ ちゅっ！ だ、だめ…んっ！ だめだってえっ！
178 今…ちゅっ！ キスされたらっ…んんっ！ あたし…ぷっ、ちゅっ！
179 あっ…本当に…だ…めええ…んんっ…ちゅっ、ふあっ…んんっ！
180 ちゅうっ、ちゅっ、ちゅっ！ ちゅっ…！ ちゅううっ！」

181
182 ・千夏、軽イキ

「あう…んんっ…ふっ…ふうう…はあ…っ、はああ…っ」

「はあ…はあ…急にするのは…反則だよお」

・主人公とのキスの虜に

(ささやき)

「舌を絡めてする、とっても気持ちいいキスらしいんだけど…」

(ささやき)

「ね？　して…？」

・ディープキス、開始

「んっ、ちゅっ…ちゅっ、あむっ、ちゅりゅ…れろ…ちゅ…

んあっ…れろ、じゅ…じゅちゅ、んじゅりゅ…れろれろ…

あむ、れろれろれりゅ…ぷちゅ、じゅりゅ、んちゅ、ちゅばっ」

(ささやき)

「はあ…はあ…これ…やばい。心臓がすごいドキドキする…

気持ち良くて…癖になっちゃう…」

「はあ…はあ…ねえ、もつとしよ？　あたし、もつと気持ち良くなりたい…」

・ディープキス

・千夏、気持ち良さに最後は喘ぎ声が漏れる

「はあ…んちゅ、れろれろ…れろじゅちゅ…んちゅ…はむっ…ん、きもち…んんっ…

れろれろ…んじゅ、れろ…んちゅ…ちゅ…れろれろ…んれりゅ…んん、れちゅ…

んじゅちゅ…れろれろ…ちゅ…あむ…れろれろ…んっ…んんっ…んふうっ！」

・千夏、キスの気持ち良さでイキ、主人公にもたれかかる

SE:衣擦れ

「ぷはっ…んんっ…はあっ…はあっ…！　ふううっ…はうっ…ああっあ…うう…んんっ…！

はあ…はあ…ふうう…んっく…んんっ…んんんっ…」

(小声で)

「やばい…今の…本当に…私…キスだけで…うそ…ふうんっ…んっ…
だ、ダメッ、こっち…見ないでっ…んんっ！」

・千夏、絶頂の余韻が恥ずかしく、主人公から顔を背ける

「はあ…はあ…はあ…んんっ…はあ…はあ…ふうう…んっ…ふうう…
はあ…ふう…ふう…」

・千夏、顔を上げ

「あっはは…ごめんね。ずっとキスしてたから、息上がっちゃった」

・千夏、息を整えて。

「すう…はあ…ふう…」

「ふう…ありがとう。あなたのお陰で、キスの魅力…わかった気がするよ」

「だから…さ。あの…あなたが良かったらんだけど…またキスの練習…
付き合ってくれない？」

・主人公、千夏のお願いに了承。

・間

・千夏、不意打ち気味に主人公にキス

※感じながら

「ふう…ちゅっ…んちゅ…はあっ…あうっ…んちゅ…れろれろ…んふっ…
れりゆりゆ…れろ…はうっ、れろじゆりゆ、んふ…はあっ、ん…んちゅ…れろれろ…んじゅ、
んれりゆ…れりゆれりゆ…ちゅぷっ…んじゅれりゆ…あうっ…んふっ…
れろれろ…んじゅれろ…ちゅっ…はあっ…はあ、んっふ…れろれちゅ…
んじゅりゆ…れろれろ…あむっ…れろ…ちゅっ…んちゅ…はあっ、ううう…」

・千夏、軽くイキながら

「はあ…はあ…はあ…ふっ…んんっ…もっと…もっともっと…練習…させて…ね？」

・幼なじみとキス練習をしてたら本気になってどハマリしそう END